



第2回「キャリア教育サポーター派遣事業」特別講演

今年度本校は「学力向上フロンティア校」支援事業の一環として普通科を対象に、系統的・組織的にキャリア教育を実践し、高いモチベーションを維持しながら進路実現へと導く取組である「みらいプロジェクト」に取り組んでいます。その一環として、2年生普通科を対象に、京都文教大学臨床心理学部より中村博幸先生をお招きし、2月4日(木)に第2回「キャリア教育サポーター派遣事業」特別講演を開催しました。



中村先生は、大学で「転換教育」や「初年次教育」の研究に従事しておられ、大学におけるレポートなどの書き方において、多くの学生が感じている高校とのギャップを埋めるための教育について研究しておられます。今回の御講演「大学生になる - 高校と大学をつなぐ -」の中でも、「文章表現の転換」「文章表現の3つのステップ」などのキーワードをもとに、「わかりやすい文章」「うまく伝わる文章」をに書くためのコツについて御教示いただきました。

先生はさらに自分を作るための「引き出し」の重要性についてもお話しされました。

その中で先生は「大学生になることは目的ではなく手段＝次へのステップである。」という考え方について述べられました。自分の生き方をデザインするためには、成長過程においてさまざまな「引き出し」を作ることが大切であり、その「引き出し」を整理したり、つないだりする中から「私」を演出するということを教えていただきました。

わかりやすい身近な例を豊富に用いて展開され、先生の御講演には改めて気付かされることも多く、生徒たちに自らを振り返り自分の足元をしっかりと見据える良い機会を与えていただきました。今回の御講演内容はあくまでも大学進学を前提としたモチベーションがテーマでありましたが、お話を聞かせていただくうちに「引き出し」を作り、そしてそれを整理する作業とは人生設計そのものであることに気付かせていただきました。

福高は、あなたの「みらい」を応援します！

生徒感想文

「キャリア教育講演」を聞いて

2年1組 女子

「自分の中の引き出しを増やすこと。」これが、講師である中村先生の一貫とした主張であったと思う。中村先生は高校・短大・大学の授業を受けるにあたって、そして仕事をするにあたって、いかに「引き出し」が重要であるかを話してくださった。確かに「引き出し」が多ければ多いほど他人との共通点を見つけやすい。他人とコミュニケーションをとるとき、共通点があるということはとても有利な点と言えるだろう。



私も将来はブライダルプランナーになりたいと思っているが、常に新規のお客様の心を開き、御要望をすべて聞かせていただかなければならない。そのような時にも「引き出し」が多いほど会話も弾みやすいだろう。そのような場で生かすためにも、いろいろなことに興味を持ちたいと思う。

2年4組 女子

引き出しの多い人間にはたくさんの方がついてくると思います。他人から興味を持たれ、人脈も広がり、人としての幅も広がると思います。だから、たくさん知識を蓄え、いろいろな分野に柔軟に対応できる人間になれば、社会に出てからもいろいろなアクションをおこせるのではないかと思います。



また講演の中で、「趣味を仕事にしていけない、特技は仕事にすると大切にされる。」と述べられました。しかし私自身の心の中に、「趣味と特技の違いとは」という疑問が浮かびました。この疑問の答えを高校生の中に自分なりに見つけたいです。中村先生は「趣味を仕事にして行き詰ったとき、その人はどうなるかわからない。」と言われました。自分の居場所が無くな

ってしまうということなのでしょう。この言葉をヒントに、答えを導いていきたいです。

